

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0990200198 | | |
| 法人名 | 株式会社 ケアフロンティア | | |
| 事業所名 | グループホーム さんぼ道 | | |
| 所在地 | 栃木県足利市山下町2325-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4年 8月13 日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年10月6日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年9月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな住宅街に位置しており、天気の良い日は散歩に出かけたり、ひなたぼっこをしたりしている。地域の方もよく散歩をしており、挨拶等して交流を図っている。新型コロナウイルス感染拡大前までは、施設内行事に地域の方にも参加して頂いたり、清風高校ボランティアの受け入れや、夏祭りの子供神輿の休憩所として提供するなど地域との関わりがある。毎月、外出行事や季節を感じ取れる行事を開催し、利用者が役割や楽しみを持って、日々の暮らしに笑顔や満足が得られるよう支援している。現在では、感染拡大状態を考慮しながら出来る範囲で外出をし、地域や家族と関わりを持てるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市西部の閑静な住宅街にあり、周辺には緑も多く落ち着いて暮らせる環境にある。同じ敷地内には小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、合同で運営推進会議や消火・避難訓練を行っており、緊急時等には協力し合うなど連携が図られている。「こころ豊かに」「楽しく」「快適」という基本理念を念頭に置き、職員は家庭的な雰囲気大切に生活環境作りとともに、安心して生活できるように利用者へ寄り添った支援に努めている。食材は職員が買い出しを行い、毎食手作りで調理している。利用者と一緒にそばやうどんを打ったり、出前や希望のメニューを行事食に取り入れるなどにより食事が楽しみとなるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 開設当初より、「こころ豊かに」「楽しく」「快適」という基本理念を掲げており、玄関にて掲示し、日々目を通し共有・実践出来る様になっている。 | 職員は常に基本理念を念頭に置き、家庭的で過ごしやすく自宅と思ってもらえるような環境づくりに努めている。また、職員がゆとりをもって利用者と接し、一緒に楽しむよう心掛けている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 山下町の自治会に加入しており、夏祭りの協力や子供神輿の休憩所として提供している。施設内での行事には地域の人にも参加のお声掛けをしている。 | 地域の行事に参加したり、事業所主催の敬老会には地域の方の参加を呼び掛けるなど交流を図っていたが、現在はコロナ禍である為、実施が難しい状況にある。同法人の他事業所と合同でボランティアとの交流を企画している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 随時、地域の方や家族からの相談や問い合わせ等を受けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、ケアホームと合同にて会議を開催している。事業運営報告し、その都度参加者と意見・情報交換をし、サービスに活かしている。 | 自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、家族、利用者の参加を得て、2か月ごとに開催していたが、現在はコロナ禍のため書面開催となっている。コロナ感染に備えなどの意見が出され備品を購入するなど運営に反映させている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議時など、現在の状況を踏まえ相談・意見交換を行っている。 | 運営推進会議の資料を市の担当者に直接提出し、コロナ感染防止の助言をもらうなど日頃から連携を図るよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内に身体拘束排除理念及び方針を掲げている。研修会や職員会議で事例をあげるとして、理解を深め、ケアを行っている。 | 毎月の職員会議でスピーチロックやドラックロックについて話し合うなどして、精神的な抑圧のない支援に努めている。現在外国人実習生を受け入れており、身体拘束をしない介護について教えるとともに、職員たちも振り返り実践に繋げている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員同士がお互い注意しあえる環境にし、利用者日々の様子観察により虐待の防止に努めている。 | | |

グループホームさんぽ道

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要に応じてNPO法人財産管理支援センターフォレストよりアドバイスを頂いている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に本人・家族に説明を行いながら不安・疑問を尋ねて理解・納得して頂く様にしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議時や面会に来られた際など随時意見・要望などあれば聴く様にしている。施設玄関に意見箱を設置している。 | 利用者からの意見要望は職員が丁寧に聞き取り、申し送りなどで共有している。家族からは利用料の支払いなどの来所時や電話で意見要望を聞くよう努めている。 | 事業所独自の広報誌等を作成するなど利用者の生活を家族にわかりやすく伝えるなど、家族とコミュニケーションを深め、より意見等の出やすい環境作りを期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月行う職員会議にて意見や提案を聴いている。その他でも随時聴きケアに反映している。 | 個別ケアに対する意見等は随時、職員に意見を伺い、運営に反映するよう努めている。行事の企画やシフトの変更などの意見は毎月の職員会議で検討し意見を反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務状況や実績を把握しており、個々の努力や実績を評価し、それを賞与等で反映している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内・外の研修に参加出来る様にして、スキルアップに繋げている。新入職員には現職員と一緒に業務に入り慣れてもらう様にしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同グループ内で研修会、職員同士での情報交換を行っている。 | | |

グループホームさんぽ道

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前訪問時、本人の不安・要望等を聴き、把握し安心して生活して頂ける様関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 来所や事前訪問時、家族の不安・要望等を聴き把握し安心して施設利用が出来る様な関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族がその時何が必要かを見極め、適切な支援が行える様努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 畑仕事、家事、清掃等出来る事を職員と共にする事で、日常生活に役割を持てる様努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人への介護に対する思いを理解し、共感して信頼関係を築いていく事に努めている。家族が面会時には普段の様子を伝え、情報共有する様にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時など普段から家族との関わりを持ち、本人の新たな情報を把握する様にしている。 | 利用料は、家族との関りを継続させるため直接事業所での支払いとしている。家族が知人や親戚を連れてきてコロナ感染防止に留意しながら面会することもある。事業所の敬老会には家族の協力のもとビデオメッセージを作成し、利用者に観賞いただき、関係継続に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の個性や相性を把握し、良い関係を保てる様に支援をしている。 | | |

グループホームさんぽ道

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も関係を大切に、相談などがある際は支援を行う様にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わり合いの中から、本人の思いや意向の把握に努めている。家族の意見も聴き、検討している。 | 利用者と相性のいい職員が、丁寧に聞き取り全員で共有するよう努めている。コミュニケーションが難しい利用者には、穏やかで不安のないような本人本位の生活が提供をできるよう思いの把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前訪問時、生活歴を把握し、本人にあった生活が出来る様に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人の生活リズムを把握し、記録に記載する等職員で共有する事で、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族の要望を確認し、職員会議での意見も取り入れ、介護計画を作成している。状態に変化が見られた際は随時見直しをしている。 | 介護計画は本人、家族の要望を確認し、職員会議での意見も踏まえ、利用開始時は6か月後に、それ以降は1年ごとに見直しをしている。モニタリングは3か月毎に実施している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 状態変化や気付きは記録や連絡帳を記入し、職員で共有している。それを基に実践、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 現状におけるニーズの把握に努め、様々な対応が出来る様心掛けている。 | | |

グループホームさんぽ道

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 施設内行事にて地域ボランティアを活用したり、近所に散歩、お店に買い物に出かけたり出来る様に支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用前の主治医との関わりを継続し、本人・家族の希望により、施設協力医等、要望に添える様に医療の紹介も行っている。 | 入所前のかかりつけ医の継続を基本としているが、家族の要望により協力医等を紹介する場合もある。2か所の医療機関から毎月往診がある。皮膚科や精神科等は家族付き添いによる受診が原則であるが、難しい場合は職員が付き添うこともある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 現在看護師は配置していない | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は医療機関、家族と情報交換などをし連携を密に図り、早期退院出来る様に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用開始時、終末期について、本人・家族と話し合いを持ち、施設として出来る事と出来ない事を理解してもらい、家族・医療関係者とチームで支援している。 | 利用開始時に重度化や終末期の対応について説明している。できるだけ寝たきりにならないよう、また食事が経口より摂れる状態であれば継続して支援していく方針である。過去に1件看取ったこともある。 | 看取りについての勉強会を開催し、知識を深めるなど、終末期に向けた体制作りを期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は普通救命講習を受講しており、職員会議での勉強会やマニュアル等により周知を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を行っている。内1回は消防署立ち合いにて実施している。 | 年2回法定の消火・避難訓練を併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で実施している。災害の際は、近くにある同法人が運営する特別養護老人ホームに避難することとしている。水、食料等の備蓄もあり、消費期限がせまったものは食事に活用している。 | |

グループホームさんぽ道

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は利用者に対して人格を尊重し、言動に注意を払い介護する様に努めている。 | 利用者に対する呼称は、基本的には苗字に「さん」づけであるが、同じ苗字の場合は下の名前に「さん」づけで呼んでいる。利用者の個性に合わせて、怒ったり不安にならないような対応を心掛けている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が思いや希望を話しやすい雰囲気作りを職員が作る様に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務優先では無く、本人優先の介護を行う様に支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に福祉理容車に来て頂き、本人の希望に沿ってカットやカラーなども行っている。化粧も本人が好きに出来る様支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備から片付けまで、一緒に出来る事は行って頂く。食事のメニューも同じ様な物にならない様に、栄養面にも考慮し作っている。 | 食材は職員が買い出しを行い、毎食手作りで提供している。利用者と一緒にそばやうどんを打ったり、出前や希望のメニューを行事食に取り入れるなどより楽しみとなるよう支援している。利用者も食器やテーブル拭きなどできる事を手伝っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々にあった食事形態や量を提供し、食事・水分摂取量を確認し、記録している。摂取量低下時は主治医に相談し、適切な対応をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っている。義歯利用者は夜間、義歯洗浄剤を使用し清潔保持している。必要時には歯科往診の対応も行っている。 | | |

グループホームさんぽ道

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄介助で観察を続けて行い、個々に合った排泄パターンを確認し、現状で適切な対応が出来る様支援する。 | 全員がトイレでの排泄をしている。夜間のみのおむつ使用者もいるが、排泄チェック表を活用し利用者に合わせた排泄の自立支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | こまめな水分補給と身体を動かし、体操を行っている。便秘時の対処は主治医と常時相談し対応を変化させている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週二回程度、利用者の要望、状態により臨機応変に対応している。 | 週2回程度の入浴を基本としているが、希望により多く入浴するなど柔軟に対応している。拒否者には無理強いをせず、日にちを変えるなどしている。季節のゆず湯や入浴剤も活用し、楽しめる入浴の提供に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の状況により、日中にもベットにて休む時間を設けている。昼夜逆転をする事が無い様にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 各利用者の内服薬の種類把握に努めている。服薬介助時は誤薬防止の為、服用前後に確認を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の生活歴を把握し、その方に合った余暇活動や掃除・洗濯等、日常生活の中での役割を提供する。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎月、季節に合った行事や外出の企画をし、外に出る機会を増やす様努めている。天気の良い日は散歩やドライブ、買い物等にも出掛けている。 | 毎月季節に合った外出をしていたが、現在はコロナ禍のため難しい状況にある。敷地内や最近できた近くの高台への散歩をしている。利用者の自宅近くの桜や紅葉を見にドライブに行くこともある。 | |

グループホームさんぽ道

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で管理出来る利用者は個々の希望、能力により支援している。出来ない利用者は施設で預かり、そこから買い物や外食時に支払している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の希望時にその都度対応をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関に行事や外出時の写真を飾っている。季節を感じられる様な飾り付けもやっている。 | 空調や加湿器でこまめに温湿度を管理するとともに、清潔で快適に暮らせるよう努めている。壁や空間には利用者と一緒に作った折り紙や写真などを飾っている。季節ごとに飾り付けを変えるなど工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブル、ソファなどが置いてあり、利用者がそれぞれ好きな様に過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの家具や使い慣れた道具を持って来て頂き、自宅に居る様な雰囲気作りをし、居心地の良い環境にするようにしている。 | エアコン、カーテン、ベッド枠が備え付けられている。利用者はテレビなどを持参している。また、写真などを飾り居心地よく過ごせるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はバリアフリーとなっており、居室やトイレ等は分かりやすく表示をしている。 | | |